

水稻高標高試験圃の生育状況 (令和5年)

農業試験場原村試験地(標高1,017m)

調査時期	調査項目	きらりん				ゆめしなの				あきたこまち			
		前年 (R4)	平年	本年 (R5)	平年差	前年 (R4)	平年	本年 (R5)	平年差	前年 (R4)	平年	本年 (R5)	平年差
移植後 20日	主稈葉数 (枚)	5.5	5.9	6.6	+0.7	5.1	5.7	6.4	+0.7	5.6	5.8	6.6	+0.8
	草丈 (cm)	28	28	33	118%	30	29	36	124%	25	26	30	115%
	茎数 (本/m ²)	108	108	157	145%	83	85	144	169%	76	83	129	155%
移植後 30日	主稈葉数 (枚)	7.5	7.4	8.4	+1.0	7.0	7.3	7.9	+0.6	7.5	7.4	8.3	+0.9
	草丈 (cm)	33	35	37	106%	35	34	40	118%	29	29	32	110%
	茎数 (本/m ²)	250	250	301	120%	198	198	280	141%	168	161	265	165%
移植後 40日	主稈葉数 (枚)	9.2	9.1	10.0	+0.9	9.0	9.0	9.6	+0.6	9.4	9.1	10.2	+1.1
	草丈 (cm)	53	50	54	108%	58	53	54	102%	49	43	42	98%
	茎数 (本/m ²)	535	518	598	115%	472	425	576	136%	496	370	531	144%
移植後 50日	主稈葉数 (枚)	10.7	10.3	11.1	+0.8	10.6	10.3	11.0	+0.7	10.9	10.2	11.7	+1.5
	草丈 (cm)	68	63	72	114%	72	68	73	107%	62	55	61	111%
	茎数 (本/m ²)	573	604	624	103%	486	498	602	121%	515	449	586	131%
幼穂形成期	期日 (月日)	7/4	7/3	7/1	-2	7/8	7/10	7/8	±0	7/14	7/16	7/14	±0
出穂期	期日 (月日)	7/28	7/29	7/25	-4	8/2	8/3	8/1	-2	8/6	8/9	8/5	-4
成熟期	期日 (月日)	9/11	9/9	9/1	-8	9/17	9/18	9/12	-6	9/26	9/25	9/17	-8
	稈長 (cm)	79	73	71	97%	89	84	91	108%	89	81	84	104%
	穂長 (cm)	18.9	18.4	17.8	97%	18.5	18.6	18.0	97%	18.0	17.6	17.8	101%
	穂数 (本/m ²)	448	512	538	105%	341	393	543	138%	331	355	507	143%
	玄米重 (kg/a)	66.7	59.8	63.4	106%	64.4	65.7	75.5	115%	70.7	64.8	73.4	113%
	千粒重 (g)	23.8	21.2	20.9	99%	24.3	22.6	21.8	96%	24.0	22.0	22.1	100%

平年値:平成28年～令和4年のうち収量最高、最低年を除く7年中5年の平均。

移植日: 令和5年5月25日 1株3本手植え 中苗、栽植密度:22.2株/m²(30cm×15cm)

玄米重は1.85mm篩データを使用。

<概要>

移植後20日の生育 いずれの品種も主稈葉数、草丈、茎数ともに進んでいる。移植後が全体的に平年より高温で推移し、活着、分けつが順調に進んだと考えられる。

移植後30日の生育 いずれの品種も主稈葉数、草丈、茎数ともに進んでいる。移植後20日に引き続き、高温、少雨傾向であり、生育は順調であったと考えられる。

移植後40日の生育 主稈葉数、茎数はいずれの品種も平年より進んでいる。草丈は平年並み～やや長い。全体的に生育は前進傾向であるが、6月5半旬がやや低温傾向であり、移植後30日時点と比べ、生育の進みはやや緩慢になったと考えられる。

移植後50日の生育 引き続き引き続き前進傾向である。「きらりん」では、止葉（第11～12葉）抽出が終了している。

幼穂形成期 「きらりん」で平年より3日早く、「ゆめしなの」、「あきたこまち」で平年並みとなっている。

出穂期 「きらりん」で平年より4日、「ゆめしなの」で2日、「あきたこまち」で4日早かった。

成熟期調査 「きらりん」、「あきたこまち」で8日、「ゆめしなの」で6日早かった。稈長は「ゆめしなの」でやや長く、その他は平年並み、穂長はいずれの品種も平年並みであった。穂数は「きらりん」で平年並み、「ゆめしなの」、「あきたこまち」で平年よりかなり多かった。

収量調査 いずれの品種も平年より多かった。要因として、気象条件が移植以降、ほぼすべての期間で平年より高温で推移し、後半まで良好な生育が保たれたことから初期からの茎数増加、最終的な穂数および粒数の増加につながったと考えられる。また、登熟期間の平均気温は約23℃で、日照も平年以上であったことから平年対比の登熟歩合の低下もみられず(80%以上)、多収になったと考えられる。また、本年についてはほ場の深耕による作土層の改善も初期からの生育促進に影響したと考えられる。

千粒重は、「きらりん」、「あきたこまち」は平年並み、「ゆめしなの」はやや小さかった。